

秋田県建設業協会の広報活動

一般社団法人 全国建設業協会：取材

秋田県建設業協会では、昨年11月と今年3月の2回にわたり、会員を対象とした広報に関する講習会を行いました。

また、秋田県建設業協会はこの講習会で得た知識を基に、協会でプレスリリースを行ったところ、地元の一般紙2紙と、NHKに取り上げられるなど、積極的な広報活動を展開しています。

そこで、秋田県建設業協会では広報を担当する福原課長さんに今回の講習会の感想と、協会の広報活動についてお話を伺いました。

質問1 秋田県建設業協会では、昨年11月と今年3月に会員を対象とした広報に関する講習会を行っていますが、そのきっかけを教えてください。

回答1 建設業は一部のマスコミの報道により一般の方々にはダークなイメージが植えつけられていたと思います。また、「コンクリートから人へ」というような政策で公共事業に批判的な世論が形成された経緯もありました。

しかし、東日本大震災を契機に危険を顧みず活動する建設業の姿に、社会を支える危機管理産業として多くの方々に認識され始めました。

今回行った講習会は、広報に対する意識の高揚を図り、建設産業に携わる者として「地域の建設業の真の姿」を一般の方々に情報発信していく上での一助となることを目的に実施しました。

●対象：県協会・建産連会員企業の経営者、
広報担当者、各協会事務局職員

●第1回／平成25年11月21日
(出席者59名)

●第2回／平成26年3月4日
(出席者40名)

質問2 受講者の方々の反響はどうでしたか。また、その反響をどのようにお考えですか。

回答2 第1回目は、広報の概要説明と後半の一部に実践を織り交ぜた形の受け身の講習会でしたので、内容はわかりやすかったものの、実用にはほど遠いという感触でした。

第2回目は、参加者全員参加型の完全に実践編という形式でしたので、否応なく全員が同じ目線で同じ方向に取り組み、その結果、時間が少し足りなく感じるくらいの、満足感が得られた内容のようでした。

質問3 講師は全建ジャーナルにも連載いただいている高崎哲郎先生でしたが、如何でしたでしょうか。

回答3 おとなしい県民性ですので、第1回目は先生の迫力に圧倒された感がありましたが、第2回目は、第1回目と同じ先生で免疫ができていたせいか先生がぐいぐい引っ張り、引き込んでくださり、そのペースが自然体でしたので、非常に楽しい中に実践のポイントを身

に付けることができました。

緊張感を持たせながら、ムダなくテンポのある、楽しく、大変親しみやすい先生でした。

質問4 今後も協会としてこのような講習会（勉強会）を続けていこうとお考えですか。

回答4 形式は異なるかと思いますが、平成26年度も継続していく予定です。

質問5 今回、協会ではプレスリリースを行ったと聞きました。プレスリリースを行った内容ときっかけを教えてください。

回答5 3月20日に建設産業支援事業の一環として「講演会」^(※)を開催しました。第2回目の講習会の実践編での題材にしていたことと、当会が昨年11月1日に秋田県の指定地方公共機関に指定されたこともあり、今後、消防関係者と連携して業務を進めていく場面が多いと推測し、有事の際に危機管理産業である建設産業にどのようなことが必要とされるのかなどを感じ取る目的での開催でしたので、マスコミにアピールすることとしました。

(※) 東日本大震災発生から3年が経過し、また、近年各地で多発している豪雨、豪雪等の自然災害等に業界として取り組むべきことを再認識する機会と捉え「生きるための道」と題し、元南三陸消防署長の小畑政敏氏を招いて講演会を実施した。

質問6 プレスリリースするに当たって特に気を付けた点、注意すべき点、苦労した点は何ですか。

回答6 苦労した点は特にありませんでした。秋田県庁内に記者クラブがありますが、プレスリリースするためのフォーマットがある程度決まっているため、その形式にしたがわざるをえませんでした。

質問7 新聞記事になったこと、テレビ放映させたことについての感想をお聞かせください。

回答7 予想以上の反響でしたので、充実感を得る事が出来ました。

質問8 これから取り組む他県協会の方々にメッセージをお願いします。

回答8 改めて考えると、プレスリリースする題材がいくつもあるように思えます。それを、いかにしてマスコミに興味、関心を持たせるかということが課題と考えますが、当会の講習会の講師としていらして下さった高崎哲郎先生は、「マスコミに取り上げられる、られないの前にまずは書いてみよう、投げ込んでみよう。」とおっしゃっていました。臆することなく試みる事が第一歩だと思います。

大変ありがとうございました。



◀平成26年3月22日
河北新報

▼平成26年3月24日
秋田さきがけ新報

